

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

376

こども科学館運営事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費		管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	社会教育費		
	目	こども科学館費		
	大事業	こども科学館事業		
	中事業	こども科学館運営事業		

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	昭和56年度	～	無し	
事業実施の根拠法令	和歌山市立こども科学館条例		関連課	学校教育課 古田 清和 435-1139

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要		
	こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する。		こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する事業。		
事業内容	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
	科学展示、プラネタリウム投影、自然観察や実験工作等の普及活動、科学に関する調査研究を実施する。	科学展示、プラネタリウム投影、自然観察や実験工作等の普及活動、科学に関する調査研究を実施する。	科学展示、プラネタリウム投影、自然観察や実験工作等の普及活動、科学に関する調査研究を実施する。	科学展示、プラネタリウム投影、自然観察や実験工作等の普及活動、科学に関する調査研究を実施する。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	9,815	9,783	9,881	9,739	0	0	0	0	0	0
伸び率(%)	△1.5%	3.3%	0.7%	△0.4%	△100%	△100%	0%	0%	0%	0%
人件費	正規職員	5,799	5,719	5,654	5,415	5,353	0	0	0	0
	正規職員以外	5,639	5,639	5,913	5,913	5,021	0	0	0	0
	小計	11,438	11,358	11,567	11,328	10,374	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	9,815	9,783	9,881	9,739	0	0	0	0	0	0
所要人数(人)	正規職員	0.72	0.71	0.71	0.68	0.69	0.00	0.00	0.00	0.00
	正規職員以外	2.00	2.00	2.01	2.01	1.67	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	常設展示及びプラネタリウム保守点検業務委託4,482千円 ソフト借上料4,884千円(令和3年度当初)									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	普及活動開催回数	回	目標値	113	109	99	99	
			実績値	102	88			
			達成度(%)	90%	81%	%	%	%
成果指標	普及活動参加者数	人	目標値	4500	4500	4500	4500	
			実績値	3303	1381			
			達成度(%)	73.4%	30.7%	%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	科学普及教室は、申込者が増加し、その需要は伸びる傾向にある。しかし令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、科学普及活動参加者数の年度別の達成度が30.7%と近年になく低くなってしまった。
見直し・改善内容	科学普及教室の内容の精選及び開拓を進め、より充実させることで、参加者数の維持・増加につなげていく。プラネタリウムの番組投影については、昨年度に引き続き1日2番組の投影を行い大人をターゲットに集客を図った。また、市民図書館と連携協力し科学普及教室の出前教室も行った。今後も予算削減の折、あらゆる可能性を探って、工夫した運営を行ってきたい。